

人の縁むすびで地域の発展を

「縁むすび世界大会」

松江くにびきメッセで
11月23、24日開催



小松電機(株)社長

小松昭夫氏らが提唱



▲提唱者の代表、小林昭夫氏
多企業の賛同を得て大会が実現

縁むすびで伝統のある出雲地区にちなんで、国際的な人間の信頼関係を築くことを目的とした、「第一回 神在月縁むすび世界大会」が十一月二十三日、くにびきメッセ国際会議場ほかで開かれる。主催は「世界八百万(やおよろず)の会」(千家尊祐委員長)。大会には、小松電機(株)小松昭夫社長、八束郡八雲村や、(株)山陰合同銀行(丸根根頭取 本店・松

江市白瀧本町)をはじめとする、山陰地方の有力企業の代表者や、東京地区の一部上場企業社長を含むニュービジネスの創業経営者ら約六百人が参加を予定。大会で採択された提言を、インターネットを通じて全世界に発信する計画もあり、企業が中心となった世界規模の試みとして注目度は高い。「縁むすび世界大会」では、参加者の出会いと議論の中

ら、現代日本の構造を見直し、国際社会での日本の役割や、各個人の役割を認識していくことを目的としている。そして、出雲地区を中心とした人のネットワークを作り、それを通じて新しい情報文化事業の創出や、既存企業の活性化人材の育成につなげていく構想も持っている。大会の内容は、人と心、水食、街とハイテクノロジーの融合をテーマに様々なイベント



▲第一回「縁むすび世界大会」開催の検討会
小松氏をはじめ、(株)山陰合同銀行、丸根根頭取、八束郡八雲村、(株)山陰合同銀行、丸根根頭取、本店・松江市白瀧本町)をはじめとする、山陰地方の有力企業の代表者や、東京地区の一部上場企業社長を含むニュービジネスの創業経営者ら約六百人が参加を予定。大会で採択された提言を、インターネットを通じて全世界に発信する計画もあり、企業が中心となった世界規模の試みとして注目度は高い。「縁むすび世界大会」では、参加者の出会いと議論の中

トが予定されている。ヒーリングミュージックの第一人者である宮下富実夫氏のライブを皮切りに、「現代王国論」や「日本解体」などの著書で知られる草柳大蔵氏と、自然と共に生きる生活法と食事法のマイクロビオティックの世界的リーダー、久司道夫氏が基調講演。さらに、各テーマを分科会で検討。結果を提言としてまとめ世界に発信する。また、第二部では、二十四日にビジネスフォーラムを開催(社)ニュービジネス協議会相談役の下村澄氏と、多摩大学経営情報学部教授の望月照彦氏との対談が予定されている。同大会の開催を提唱してきた小松昭夫氏は、「新しい時代の社会の在り方を模索するために、昭和六十三年から取り組んできた様々な試みが、他の企業の協力を得てこうした世界規模の大会として実現するはこびとなった。一見、経済とは結び付きにくいテーマに思われるかもしれないが、この大会は、現在の混沌の社会下で必要となってくる企業の経営理念の

変革にも必ず「役立つ」と、参加を呼びかけている。問い合わせは、(電)0852-8521881、4916、世界八百万委員会まで。